



かるがも



<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2019年〈令和元年〉●月

新年度を迎えて

少し時間が経ってしまいましたが、新年度のご挨拶とご報告を申し上げます。

平成31年3月末に転出、退任する職員71名に別れを告げ、4月には新規採用者と転入者、合わせて82名の新しい仲間を迎えました。以前からの職員を含め本年度もよろしくお願い申し上げます。

5月1日に平成から令和に時代が変わりましたが、平成31年4月からの診療体制についてご紹介いたします。局長以上の幹部職員につきましては、伊藤千秋副病院長、青墳裕之技監（病院長補佐）、中島弘道医療局長、高井孝子看護局長、水貝昌弘事務局長と変わりはございません。診療部は、青木満心臓血管外科部長が診療部長に昇任し、診療部は皆川真規（内分泌科）、内田整（麻酔科）、仲野敦子（耳鼻咽喉科）の4人の診療部長で医師の管理業務を分担しております。

続きまして本年度の目標の一部についてご紹介させていただきます。いつものように「安全・安心な医療の提供」が当院の第1の目標です。それに次ぐ重要な責務として、「質の高い医療の提供」があります。前病院長の伊達裕昭先生が長年注力されてきた二分脊椎外来に加え、昨年度から口唇口蓋裂診療チーム、糖尿病療養支援チーム、消化器内視鏡外来が活動を行っています。こども病院の強みである複数診療科、多職種によるチーム医療の推進と、薬剤師、臨床工学技士、栄養士等の病棟業務を拡大し、多職種による病棟患者の診療、病棟運営をすすめることを本年度の目標として掲げております。「安全・安心な医療の提供」と「質の高い医療の提供」の実現のためには「職員がイキイキと働ける職場環境の整備」が欠かせません。当院の基本方針である「その子らしく、その子のために」

病院長 星岡 明



を実現するために、意思疎通が図られ、お互いを認め合っている、一体感のある職場を目指します。これは、当院が30年間培ってきた当院の文化を再確認することでもあります。

地域の皆様との接点となっている、こども・家族支援センターと地域医長連携室の担当は4月から中島弘道医療局長より皆川真規診療部長に交代いたしました。これまで通り地域医療連携室を中心に、県民公開講座、千葉県小児臨床症例研究会（公開カンファレンス）を開催します。本誌「かるがも」等の広報を通じて、地域の皆様、登録医の皆様への情報発信をおこなって参ります。

当院は開院30年を経て施設設備も大分古くなって参りました。医師を含めた病院職員の職種、数も大分増えましたし、社会の変化、医学の進歩に伴い当院に求められる役割もこの30年間で随分様変わりしました。病院施設の機能が必要に伴わなくなってきました。まだ具体的な進展はございませんが、そろそろ将来の病院建て替えを想定し、こども病院のあるべき姿について検討を開始する時期に入ってきました。

これからも千葉県の小児医療の拠点として、専門性の高い医療、質の高い医療、安心安全の医療の提供に力を尽くす所存ですので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、当院の活動を支えてくださっているボランティアの皆様へ感謝の意を表し、ご挨拶を結ばせていただきたいと思います。

千葉県こども病院 新体制

病院長

星岡 明

医療局長
医療安全管理室長

中島 弘道

診療部長
こども・家族支援センター長

皆川 真規



医療安全管理室長
中島 弘道

医療安全管理室長就任にあたって

この度、平成31年4月1日付けで伊藤前室長の後任として医療安全管理室長に任命されました。患者様およびご家族、職員までも含めてこども病院の安全安心を図り、質の高い医療を提供できるよう努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

当管理室は私と仲野敦子診療部長(室長補佐)、渡辺優子副看護局長他、看護師3名、薬剤部長、臨床工学科部長、事務局1名に事務員2名を加えた計10名のスタッフで構成されております。

こども病院ではかねてより医療事故防止のために病院全体で取り組んで参りましたが、医療安全管理室はその中心的役割を担う病院長直属の組織です。業務はインシデント情報収集と分析、予防策の検討と実施、安全と質向上のためのマニュアル整備、重大事故への対応、ニュース配信や院内研修による安全文化の向上など多岐にわたっております。

医療が高度化、複雑化するにつれ事故につながる要因は増加傾向にあります。そうした事故の多くは、ちょっとした不注意や思い込みがきっかけになっています。そのような「人間は誤りを犯す」ことを前提としたシステムの改良が安全向上には重要となります。そし気がついたことをチームの全員が言い合える環境作りと、患者、家族の皆様とのコミュニケーションが大切であることは言うまでもありません。

当管理室が直接地域の先生方と接する機会は少ないかもしれませんが、何かお気づきの点がございましたらご指摘いただけると幸いです。



こども・家族支援センター長
皆川 真規

こども・家族支援センター長就任にあたって

平成31年4月1日より、こども・家族支援センター長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。こども・家族支援センターは、①地域医療連携室、②生活支援室、③患者・家族相談室、④ボランティア室、⑤成人移行期支援室、の5つの組織で活動しています。山岸副看護局長の統括のもと、医師4名(兼任)、看護師長2名、看護師5名、医療ソーシャルワーカー(MSW)3名、チャイルドライフスペシャリスト(CLS)3名、事務員2名が所属している、当院では比較的大所帯の組織です。地域医療連携室は医療機関連携のほかに千葉県児童虐待防止医療ネットワーク事業の中心であり、こどもの安全を第一に、健やかに育つことを支援しています。また、ボランティアの皆さんのご支援にはいつも大変感謝しております。こども・家族支援センターの活動は、医療施設連携を超えて、「医療と社会の橋渡し」をしていくことだと感じます。

当院の施設の大部分は30年を超え経年劣化だけでなく、業務の規模の著しい拡大、施設設計時にはまったく想像できなかった機能が求められるようになり、皆様の期待に十分応えられない状況が多々発生しており大変申し訳なく思います。改築等の予定はまだありませんが、次の50年にどのようなこども病院にしていくか考え始めていい時期です。

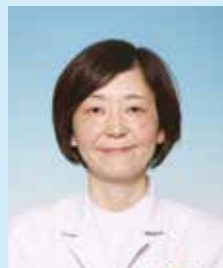
最後になりましたが、当院に通院されているあるいは入院されている子どもさんとご家族が、皆その個性を尊重され、社会の一員として生きていけるよう、当院の基本方針である、「その子らしく、その子のために」頑張っていきたいと思っております。

新部門責任者・新総括医長



心臓血管外科 部長
萩野 生男

心臓血管外科の萩野です。当科では先天性心疾患の外科治療を施行するにあたり、胎児期から、循環器内科、周産期科、新生児科、麻酔科、集中治療科をはじめとする関連診療科と綿密な検討を始めております。また周術期は加えて、薬剤、臨床工学、感染制御、放射線、検査、栄養等の多部門と協調し、まさにこども病院の医療・人的資源を総動員しながら、患者様にとって安全でかつ新しい外科治療の提供に努めています。



アレルギー・膠原病科 部長
山出 晶子

2003年に着任し、さまざまな患者様の成長や治療の経過を拝見してまいりました。当科ではアレルギー疾患、膠原病、自己炎症性疾患、免疫不全症など幅広い疾患に対する専門的な診療を行っております。今後も患者様に適切な医療を提供できるように、他職種とも連携しながら丁寧な診療を心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



循環器科 部長
東 浩二

千葉県こども病院へ赴任して今年で10年目を迎えました。当科では先天性心疾患をはじめとする様々な心疾患に対する診療を行っています。当院の基本理念である「その子らしく、その子のために」を目指して、より高度でより安心な医療を提供できるよう日々努めてまいりますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介
眼科

主任医長
平野 織香



眼科では小児に多い斜視、弱視を中心に眼瞼涙道 白内障など小児眼科全般を対象に常勤医2名 視能訓練士4名で火曜日を除いた平日の午前中に外来診療を行っております。

点眼薬や手術による治療以外にも、屈折の異常に対する眼鏡装用、視力の左右差には健眼遮蔽のように訓練を行って視力を育てていくことが重要になってきます。最近ではスポットビジョンスクリーナーによる屈折、眼位のスクリーニング検査を施行されている小児科からの御紹介も多数いただいています。当科では他覚的な屈折値を用いて眼鏡を処方する低年齢のお子様や発達障害のお子様が多いのも特徴です。小児の検査に熟練したスタッフが検査を担当させていただいております。

昨年度より涙道内視鏡による先天性鼻涙管開放術を施行しています。小児の流涙の原因である

先天性鼻涙管閉塞は自然軽快がおおくみられる疾患です。生後6か月未満では合併症のリスクも高いため、通常生後6か月以降からブジーによる開放術を行っています。1歳以上では外来での局所麻酔での治療は困難となるため、全身麻酔下で直径0.9mmの内視鏡を用い閉塞部位を確認しながらの開放術を行っています。閉塞部位を見ながら開放できるため確実性と安全性が向上しました。

小児の眼疾患は成長過程にあるため、自然軽快が期待できるもの、成人と治療の適応が異なるものがあります。年齢に応じた視力の成長、自覚症状の程度、御家族の希望などを総合的に考えて納得いただけるよう丁寧な治療を心がけております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



診療科紹介
血液・腫瘍科

部長
角田 治美



当科は4人の常勤医と前血液腫瘍科部長沖本由理先生の協力を得て(週2日の外来+α)、難治性血液疾患・悪性固形腫瘍などの診療に取り組んでおります。扱う疾患としては小児期発症の造血器悪性腫瘍、悪性固形腫瘍、非悪性血液疾患(再生不良性貧血、溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、好中球減少症、血液凝固異常症、血管腫など)と多岐にわたっています。入院患者は、重症例ばかりで医療スタッフは相変わらず多忙を極めておりますが、皆モチベーションは高く、仕事にける情熱は熱いです。また造血幹細胞移植にも力をいれており、日本造血幹細胞移植学会移植施設の認定を受けています。

当診療科は、新しく発足した日本小児がん研究グループ(JCCG)の参加施設(病院会員A)であり、同機構が主導する臨床研究に積極的に参加

し、全国統一された治療を行い、診療内容は日本のトップレベルを維持しています。さらに日本血液学会専門研修認定施設、小児血液・がん専門医研修施設であり、教育・研修面にも重きを置いています。

当科の特徴として、多職種(薬剤、栄養科、心理、リハビリ、養護学校先生など)の方々と密に連携し、カンファレンスを積極的に行い患者様のQOL向上に努めています。また2005年から月1回アニマルセラピーを行っていますが、患者様、ご家族の方、さらには医療スタッフにとっても癒しの時間をつくることができ、好評を博しています。2017度からは毎週火曜日に周産期センターの一室で、患者サロン“いっぷく亭”をオープンし、患者様とその家族が気軽に集える場所を設け、医療者には直接打ち明けられない悩みや相談事にものっており、ぜひ立ち寄ってほしいと思っています。

上記のとおり様々な面から患者様の治療・ケアに取り組んでいます。なにか心配事・困っていることがありましたら、遠慮なくご相談下さい。

〈千葉県こども病院 登録医のご紹介〉

医療法人 素心館 **小林こどもクリニック**

〒262-0025 千葉県千葉市花見川区花園5-3-10 プチモンド1F
TEL 043-296-2208

みなさん、こんにちは。小林こどもクリニック 小林です。

千葉県こども病院神経科で3年間勤務した後に2005年春に花見川区のJR新検見川駅から徒歩5分程の所に開業しました。在職中は内科系のみならず外科系の診療科の先生方にも大変お世話になりました。

クリニックでは急性疾患の感染症やアレルギー疾患、皮膚疾患、便秘、夜尿症等の診察、予防接種・健診を行っています。こども病院へご紹介するような患者さん多くはありませんが、いざとなればお願いできる病院があることで安心して日々の診療が出来ることを感謝申し上げます。

当クリニックでは特別な専門外来はありませんが、不安や困難を抱えて来た患者さん、保護者の方々に広く対応出来るように心がけています。

今までは疾病と連れて来る保護者の気持ちにフォーカスして診療してきましたが、最近は患者さん（子ども達）が主役であることをあらためて感じています。発達

診療時間

9:00~12:00
15:30~18:00

休診日

木曜・土曜午後・日曜・祝日



小林先生とスタッフの皆様

障害、学校を休みがち等の相談を受けることも時にあります。そこには定型的な対応方法はなく子ども達それぞれの物語があります。インフルエンザになった子ども達のなかには明日はディズニーランド予定だった子も受験の子もいるかもしれません。そんなことを考えながらかかりつけ医として診療しています。



クリニック

医療法人社団 上総会 **山之内病院 小児科**

〒297-0022 千葉県茂原市町保3番地
TEL 0475-25-1131 FAX 0475-24-5645

山之内病院小児科の井上紳江です。当院は、JR外房線茂原駅の駅前に立地しています。山之内病院は特定医療法人で、祖父の代から3代目の兄が現在院長を務めています。一般病棟・療養病棟・回復期病棟からなる137床を有し、透析センター、健診センターを併設しています。糖尿病を主体に成人の内科疾患をうけています。小児科は外来のみで小児の入院施設は持ちません。常勤は井上1名で、火曜日に千葉大学の先生に来ていただいています。茂原市長生郡は、小児科を専門とする開業医の先生方以外に、内科の先生もとても良く小児を診てくれます。一方専門医が多数在籍する小児科の病院がないため、当院では小児科医一人でも対応でき、かつこの地域で診てほしいと求められる疾患や状況を受けようと診療を行ってきました。具体的には、入院を必要としない細気管支炎や肺炎、喘息やアトピー性皮膚炎のコントロール、食物アレルギーも少数ですが外来で食物負荷試験を行い当院でフォローしています。最近多いのは夜尿症、便秘、ADHD、不登

診療時間

9:00~11:30
15:00~16:30

休診日

火曜午後・金曜午前・日曜・祝日



井上先生

校の相談です。状態によってこども病院にご紹介し、コントロールがついた患者さんは逆紹介していただいています。最近は、支援が必要な家庭背景のお子さんの紹介も増えてきました。他には2017年に職員の子供を対象とした小規模保育と病児保育を病院の3階で始めました。また院内感染対策と医療安全対策の委員長も兼務しており、病院の質の向上にも取り組んでいます。



井上先生と小児科スタッフの皆様



小児科受付